

オンライン講演会

強制治療なしの 精神科救急は可能なのか？

録画配信
あり！

申込×切
10/22(木)

日時

2026 年 10 月 24 日(土) 13:00-16:00



来住由樹

岡山県精神科医療センター院長



藤田大輔

大和診療所院長

急性期という危機に集中的に対応しようという精神科救急の治療病棟は、「精神医療が、医療と呼べるものになる」と期待もされてきました。しかし、全国各地にそのための病棟が増えると、入院直後の隔離や身体拘束という強制的な処遇がルーチン化し、医療トラウマを引き起こす場になり果てていることもしばしばです。危機状況であっても“しばらない”医療は不可能なのか。地域や生活の場で支え続けることはできないのか。人間の尊厳を守るとはどうすることなのか。様々な観点から論じあいます。



長谷川利夫

杏林大学教授



長嶺真智子

東京武蔵野病院看護師



大熊一夫

ジャーナリスト、当会代表



伊藤順一郎

精神科医、当会副代表

お申し込み

■以下の URL/QR コードからお申し込みください

<https://matto202610.peatix.com>

2026 年 10 月 22 日(木) まで！

コンビニ/ATM でのお支払いは 10 月 21 日(水) まで

■参加費 **2500 円**

※入金後のキャンセルにつきましては返金いたしません。

■お問い合わせ mattotokyo@gmail.com



プログラム

- 1) 「非同意治療は命と尊厳を守るための最終手段」
来住由樹
- 2) 「地域で精神的クライシスを支えることと精神科救急」
藤田大輔
- 3) ディスカッション
長谷川利夫、長嶺真智子、大熊一夫、伊藤順一郎
- 4) 来住氏、藤田氏からの応答
- 5) 視聴者との質疑応答

主催 日本の Matto の町を考える会

オンライン講演会 強制治療なしの精神科救急は可能なのか？

登壇者略歴

●来住由樹

岡山県精神科医療センター院長。救急・公衆衛生を経て精神科医。現岡山県精神科医療センター院長。県内休日夜間入院の8割に対応し平均在院40日。本人SOS、命の危機、社会的危機には、即応かつ個別性のある対応をする組織と地域をつくること、尊厳を守ることだと考えている。

●藤田大輔

大和診療所院長。精神科医として32年。精神科病院勤務を経て、繰り返される入退院を目の当たりにし、地域に対し憤りを感じ、ACTへの期待を大きく持った。精神科病院を飛び出し、岡山県精神保健福祉センターでACT岡山事業の実践に参加した。現在は、精神科診療所を開設し多職種アウトリーチチームで地域支援を実践している。

●長谷川利夫

杏林大学教授。身体拘束反対運動の旗手。身体拘束増加について日精協副会長は「精神科救急の整備が進み、緊急性の高い時期の患者が増えているから」と言っているが「制度の変化で拘束が増加」するのなら、そのような「制度」はおかしいのではないかと疑問を呈す。

●長嶺真智子

東京武蔵野病院看護師。内科小児科・脳神経外科勤務を経て2001年、北陸の精神科病院に勤務後、2012年、東京武蔵野病院に入職。薬物療法や隔離・身体拘束などの強制治療から、精神科病院の構造や看護師の責務に疑問を抱き、2014年、精神科認定看護師に登録。

●大熊一夫

ジャーナリスト、「日本のMattoの町を考える会」代表、元大阪大学大学院教授。元朝日新聞記者。いまドキュメンタリー映画作りに初挑戦。1970年に都内の私立精神病院にアルコール依存症を装って入院し、『ルポ・精神病棟』を朝日新聞に連載、鉄格子の内側の虐待を白日のもとに。2007年フランク・フランカ・バザリア財団から第一回バザリア賞を贈られる。

●伊藤順一郎

精神科医。メンタルヘルス診療所しっぽふあーれ院長、「日本のMattoの町を考える会」副代表。前職は国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会復帰研究部部長。専門は地域精神保健のシステムづくり。ACT（包括型地域生活支援プログラム）の研究・実践を2002年より行う。COMHBO（コンボ：地域精神保健福祉機構）共同代表。ODNJ（オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン）基礎トレーニングコース第1期生。

お申し込み

➤ 以下のサイト・QRコードからお申し込みください（クレジットカード、コンビニ支払い等に対応）

<https://matto202610.peatix.com> ※入金後のキャンセルにつきましては、ご返金いたしません。



申込×切 10/22(木) 23:30 コンビニ/ATMでのお支払いは10月21日(水)まで

参加方法

- オンライン開催にはビデオ講演会システムZOOM（ズーム）ウェビナーを使用します。
- パソコン、スマートフォン、タブレットからご参加いただけます。
- 参加用URLとパスワードは、イベント前日、お申込み時のメールアドレス宛に、メールでお送りいたします。
 - ◆ 事務局からのメール（mattotokyo@gmail.com）が届くよう、あらかじめ受信設定、迷惑メール設定等を確認しておいてください。
 - ◆ 受信拒否設定等にしてある場合は、事務局からのメールが届かず、イベントに参加できないことがあります。
特に、携帯電話やスマートフォンのキャリアメールから申し込まれる場合はご注意ください。
- イベント当日は、開始20分前から入室できます。URLをクリックし、パスワードを入力してご入室ください。
- 講演中、質問やご意見がある方は、「Q&A」という機能がありますので、そちらに書き込んでください。書き込んでいただいた内容は、参加者からも閲覧可能な設定といたします。
- イベントURLの第三者への提供、ならびに本講演会の録音・録画・撮影は固くお断りいたします。

録画配信

- 参加申込された方には、今回のイベントの様子を録画したものを、後日、録画配信いたします。イベント終了後、準備ができ次第、メールにてあらためてご案内をお送りいたします。
- 録画配信の視聴期間は、2026年11月22日（日）までです。

自主上映会を開いてみませんか？

- 大熊一夫監督・制作「精神病院のない社会」「収容ビジネスの罪と罰 前編」、自主上映会受付中！
- 当会HP「上映会開催希望の方へ」をご覧ください！
<https://180matto.jp/kaisaihouhou.php>

